研究推進計画

1　研究主題

よく学び、他と協働し、自己の成長を実感できる生徒の育成
～「男鹿南中スタンダード」を踏まえた授業づくりを通して～

2　研究主題設定の理由

昨年度、共通実践事項である＜男鹿南中スタンダード＞を全職員が共通理解し、実践を進めてきた。その成果と課題を以下に示す。

①　情意面に関わる項目（「勉強は大切だ」「勉強が好きだ」などで）秋田県平均と同等あるいは上回った。特に、新３年生は学習に意欲的、前向きである。
②　＜男鹿南中スタンダード＞を実践する中で副題の「かかわる」「つなげる」を全教育活動の場面でキーワードとして取り組んだことで、生徒同士の関わり合いが活発になったり、学習したことを次の学習や生活の場面に生かそうとしたりする姿が見られた。
③　ＩＣＴの活用を推進することができた。職員個々で研修したことを、他の職員に伝えたり、教えたりすることが多くあった。
❶　全国学力・学習状況調査や秋田県学習状況調査、各種テストの結果から「知識・技能の確実な定着」に大きな課題が見られた。
❷　「将来の夢や目標をもっている」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」など、自分の将来について考え、成長し、新たなことに挑戦しようとする気持ちや態度の育成に課題が残る。
❸　研究のキーワードであった「かかわる」「つなげる」学びを充実させることができているのは、授業の内容がよく分かる生徒が中心で、知識・技能の定着が芳しくない生徒は、「かかわる」「つなげる」学びまで到達していなかった。

上記のように、学習に対する気持ちや姿勢、自己肯定感の高まりなど、情意面に関して成果が見られた。また、「かかわる」「つなげる」をキーワードに実践したことで学んだことを生かして、自分の考えをまとめたり、深めたりしながら、次の学習へつなげていこうとする生徒の姿が見られた。一方で、諸調査の結果から「知識・技能の確実な定着」に大きな課題が残った。また、「将来の夢や目標をもっている」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しようとしている」など、様々な学習活動を通して、目標をもち、困難を乗り越えながら成長しようとしたり、成長した充実感を基に新たなことに挑戦しようとしたりする意欲を育成する面で課題が残った。

このような実態を踏まえ、今年度の研究主題を設定した。主題に「自己の成長を実感できる」を掲げた。今年度は、これまでの取組を継続して各教科・領域の授業で＜男鹿南中スタンダード＞を共通理解・実践の徹底を図る。とりわけ授業終末における「まとめ・振り返り・価値付け」の手立てを充実させ、生徒が自己の成長を実感できるような授業づくりを意識して取り組む。このような取組によって前向きに学ぶ意欲をもたせ、上記の課題を克服しながら、学校教育目標に掲げる生徒の育成の実現につながると考える。

３　研究の仮説

＜男鹿南中スタンダード　＞の共通理解・実施を継続し、特に「まとめ・振り返り・価値付け」に関わる手立てを充実させることで、よく学び、他と協働し、自己の成長を実感できる生徒が育成されるだろう。

＜男鹿南中スタンダード＞：「秋田の探究型授業」の学習過程に、各過程におけるこれまでの校内研究で明らかにしてきた指導の手立ての視点を示した授業づくりの指針

４　研究の重点と具体的方策

〈重点１〉「まとめ・振り返り・価値付け」の過程における手立ての充実
- 「何が分かったか」「何ができるようになったか」を整理、理解するための授業終末における活動の工夫
- 自己の成長（変容）を実感できるような振り返りの工夫
- 成長の実感を促す、生徒の活動に対する教師の適切な価値付け
- 〈男鹿南中スタンダード〉授業を実現するための弛まぬ授業改善
  - →相互授業参観を通した〈男鹿南中スタンダード〉の共通認識の深化
  - →年２回の生徒、教師による「授業アンケート」を基にした授業改善

〈重点２〉効果的なＩＣＴの取り入れ方の工夫
- ＩＣＴを活用して生徒同士の考えを交流したり、比較・検討したり、集約したりするなど、集団の学びをより深化させるための工夫

５　検証の手立て

(1) 諸調査（全国学力・学習状況調査、秋田県学習状況調査）の結果分析及び活用
(2) 定期テストやベーシックテストなどのデータの蓄積と分析
(3) 学習と生活に関するアンケートの実施
　　１回目：４月、２回目：７月、３回目：１２月
(4) 授業に関するアンケートの実施
　　１回目：７月、２回目：１２月